



釧路市

海の安全を守る海上保安庁。釧路海上保安部がある釧路市の釧路港には、流水が浮いている冬の海でも安全に進めるよう造られた、国内でただ一つの大型巡視船「そうや」がとまっています。こども記者2人が、2025年12月に釧路に来たばかりのそうや取材しました。(文・出原千啓、写真・小松巧)

海の安全 24時間全力で守る

こども記者見ぶん録

そうやは長さ約92メートル、重さ4200ト。20ノット(時速約37キロ)以上で走れます。氷の上に乗りに上げて船の重みで氷をくだいて進むよう、船の前が丸みを帯びた独特の形です。そんな船に乗り込んだ釧路市・

まず、船を動かす操舵室へ。船の位置を確認できるレーダーでは、他の船や防波堤といった障害物が線やつぶで映り、外が真っ暗だったり、きりで見えなかったりする時も、動いているのが見えます。

明。2人は双眼鏡から船の外を見たり、船を動かすかじをにぎったりしました。佐藤さんは「そうやは宗谷海峡から名付けられ、この船が3代目です」と教えてくれました。2025年11月に引退した2代目

巡視船「そうや」見学 レーダーで動き確認



そうやの操舵室で徳能さん(左はし)からレーダーの説明を受ける中川ふゆりさん(右はし)と加藤心紀さん(右から二入目)



そうやを見学した2人。船の前は氷をくだくため丸みがあります。船に書かれた「PLH01」は船の型番です



徳能さん(右はし)に教わりながら、操舵室でかじをにぎりました

「病気やけがの乗組員を助けてほしい」とたのまれることも。そうやにはヘリコプターをのせられ、「少しでも早く病院に運びます」と丹羽さん。この日はヘリはありませんでした。加藤さんは発着場や格納庫を見て「大きくてびっくり」と声をあげました。長い航海に備え、下の階に食堂やお風呂、ベッドといったスペースがあります。調理場には大きな蒸気がまやコンロなどがそろい、いろいろなものをたくさん作れます。コーヒーマーカーやテレビもあり、中川さんは「船の中でも快適そう」と話しました。

大変な仕事 感謝忘れずに 中川 ふゆりさん

釧路市・鳥取西小4年

海上保安庁の仕事は、私たちが普段使っている海を守ることです。密漁や密輸の取りしめり、海難事故の防止、海の水質調査など、さまざまな活動を行っています。そうやの船長の佐藤さんが「自分の仕事をやりとげて、守るべきものを守りきれたときが一番うれしい」と話してくれました。命や安全を守る仕事に、ほこりをもっていると伝わりました。一方で「一番つらいのは人を助けられなかったとき」と話し、「人を助けられないこともあるんだ」と思うと同時に、海のおそろしさをあらためて知りました。

船の生活 困ること少ない 加藤 心紀さん

根室管内別海町・別海中央小6年

そうやはとても大きな船で、救助のための小さい船やヘリコプターものりません。船にヘリが降りるなんて難しそうです。海の安全を守る海上保安官は、本当にすごいと思いました。徳能さんに「船での生活で困ることはありますか」と聞くと「スマホをすぐに使えないことくらいかな」と話してくれました。それを思い出しながら船内を見ると、ベッドや机のある部屋、食堂やお風呂もあり、陸の建物とあまり変わらないと感じました。一方で、たなやいすがしっかりと固定されていたり、窓ががんにように閉まるようになっていたり、陸の建物とは違うところもたくさん見つけました。いろいろな違いに気づき、とてもおもしろかったです。